

年に一度の

会社の

健康診断

受けませんか？

診断を受けるタイミングは今です！

サンプル
お見せして
います！

財務をより良くするには、2～3年かかることもあります。
“今”の状況を知って今後のスケジュールリングをしませんか？

こんな悩みありませんか？

- 最近売り上げが下がって今後の資金繰りに不安がある
- 売上が上がっているのになぜかキャッシュが残らない
- 金融機関への返済が多くて大変だ
- 今後、事業投資などで資金調達を受ける可能性がある
- 今の借入内容が適正なのかわからない
- 経営者保証の解除をしたい
- 保証料支払いのない融資を受けたい



会社の健康診断で解決すること

- 資金繰り改善のシミュレーションができる！
- 金融機関への適正な返済額がわかる！
- 今の借入内容が適正かどうかわかる！



会社の健康診断
(企業財務診断報告書)

詳しくは裏面へ >>>

▼▼ご相談はこちらまで FAX:0834-31-2079▼▼

ご芳名・法人名		電話番号	
住所		業種	
ご要望	<input type="checkbox"/> 会社の健康診断を受けたい <input type="checkbox"/> 詳しく話を聞いてみたい		

会社の健康診断 内容ご紹介

企業財務診断報告書の内容

- FAS財務格付判定
- 借換による資金繰り改善シミュレーション
- 格付アップに向けた「8つの重要指標」
- 貴社の財務改善重要実施事項
- 借入金一覧表
- 業界中央値比較表

FASコンサルティングとは？

- 「企業財務診断報告書」による分析により、会社の健康管理のための処方箋を策定します
- 適正な借入状況とはどういう状態か、どのような借り方がいいのかをアドバイスします
- 財務状況に合った返済をすることで資金繰りの安定を目指します

FAS財務格付判定



財務格付判定 2022年3月期	
D1	
FAS形式基準による財務格付けの判定	
年数	格付
満	~7年未満
先	~10年未満
	~15年未満
	~20年未満
	A
	B
	D1
	D1
	優先先
	良好先
	要注意先
	要注意先

FAS財務格付がわかることで、今後の方針を考えることが可能です。


資金繰り改善シミュレーション



資金繰り改善シミュレーション		サンプル株式会社	
単位 / 千円			
◎ 借換の短期借入金合計	◎ 借換の短期借入金	◎ 借換の短期借入金	◎ 借換の短期借入金
8,500	4,500	4,000	
◎ 返済を行うべき借入金総額	◎ 借換の短期借入金総額		
5,920	10年		
シミュレーション結果			
	現在の資金繰り状況	借換の資金繰り状況	
年間返済額 (借入)	1,080	592	
業種平均に基づく返済額	955	955	
返済額に対する割合	113.32%	62.11%	
借換後の資金収支 (借入)	-127	561	
年間返済額 (返済)	---	488	

資金繰りを改善するためシミュレーションを提示しています。

貴社の重点実施事項



貴社の財務改善重要実施事項		
格付ランク	優先度	
D1 ~ D2	最重要	D1ランクは財務に問題があります。債務償還年数を
D1 ~ D2	最重要	改善すべき債務償還年数や自己資本比率等(資金繰りに関係)を提出しましょう。
D1 ~ D2	最重要	キャッシュフローの1.5倍以上の返済がある

貴社に合わせた処方箋(実施すべき事項)をお伝えしています。

FAS財務格付とは？

金融庁が定めている債務者区分の形式基準にのっとった評価分析により、金融機関視点での簡易診断ができます。

S・Aランクを目指すことが、潰れない企業へつながります。

自己資本比率	FAS形式基準による財務格付けの判定														
	債務償還年数		~5年未満		~7年未満		~10年未満		~15年未満		~20年未満		40年以上		格付の劣化
30%以上	S	A	B	D1	D1	D1	D1	D1	D1	D1	D1	D1	D1	D3	破産懸念先
15%以上	超優良先	優良先	良好先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	D3	破産懸念先
自己資本プラス	A	A	B	D1	D1	D2	D2	D2	D2	D2	D2	D2	D2	D3	破産懸念先
自己資本マイナス 債務超過解消年数 3年以内	B	B	正常先	D1	D2	D3	D3	D3	D3	D3	D3	D3	D3	D4	破産懸念先
10年以内	D1	D1	D2	D3	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	E	破産懸念先
10年超	D1	D1	D2	D3	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	E	破産懸念先
債務超過目下 当期利益マイナス	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	D4	E	破産懸念先
	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	要注意先	E	破産懸念先

<ご利用料金>

企業財務診断報告書
+
(会社の健康診断)

100,000円 (税抜)
⇒初回:50,000円 (税抜)

お問い合わせ先

株式会社西田事務所

TEL:0834-31-2807 (担当:西村)
〒745-0075 山口県周南市緑町2丁目13番地

こんなお悩みにはまずは財務診断を！

- ✓ 金融機関から良い条件で融資を受けたい
- ✓ 毎月の資金繰りを改善したい
- ✓ 第三者に引き渡すときのための個人保証を不要としたい

まずは財務診断を受けてみましょう！



FAS財務格付診断表

FAS形式基準による財務格付けの判定								
自己資本比率	債務償還年数							CFマイナス
	～5年未満	～7年未満	～10年未満	～15年未満	～20年未満	～40年未満	40年以上	
30% 以上	S 超優良先	A 優良先	B 良好先	D1 要注意先	D1 要注意先	D1 要注意先	D1 要注意先	D3 要注意先
15% 以上	A 優良先	A 優良先	B 良好先	D1 要注意先	D1 要注意先	D2 要注意先	D2 要注意先	D3 要注意先
自己資本プラス	B 良好先	B 良好先	C 正常先	D1 要注意先	D2 要注意先	D3 要注意先	D3 要注意先	D4 要注意先
自己資本マイナス 債務超過解消年数 3年以内	D1 要注意先	D1 要注意先	D2 要注意先	D3 要注意先	D4 要注意先	D4 要注意先	D4 要注意先	E 要管理先
10年以内	D1 要注意先	D1 要注意先	D2 要注意先	D3 要注意先	D4 要注意先	D4 要注意先	D4 要注意先	E 要管理先
10年超	D4 要注意先	D4 要注意先	D4 要注意先	D4 要注意先	E 要管理先	E 要管理先	E 要管理先	F 破産懸念
債務超過且つ 当期利益マイナス	D4 要注意先	D4 要注意先	D4 要注意先	E 要管理先	E 要管理先	E 要管理先	E 要管理先	G 実質破綻

正常先	S	財務状況が極めて良好
	A	財務状況は良好で資金調達に不安が無い
	B	財務状況に問題は無いと言える
	C	財務状況に問題は無い水準だが、ランクアップは必要
要注意先	D1	財務状況に課題があるものの金融機関によっては正常先に猶予している場合がある
	D2	財務状況に課題があり、基本的にプロパー融資が難しくなる
	D3	基本的に要注意先となり、3年から5年で正常先に戻れるかが重要（無理ならばD4）
	D4	要管理 = 不良債権となるギリギリの財務状況改善が必達新規融資は難しい
要管理先	E	不良債権扱いとなり、金融支援はリスクが前提
破産懸念先	F	不良債権として整理対象
実質破綻先	G	金融支援が難しい

2つの指標を意識することで、金融機関の格付けランクは上がります
 銀行融資が問題なく受けられ、かつ良い条件で借りやすくなります
 潰れない会社に近づくことができます
 後継者に引き継ぐ際の個人保証が不要となります

S・Aランク企業を目指す
 = 自己資本比率15% 債務償還年数7年未満を目指し維持する

借入金 - 所要運転資金 = 要償還債務

要償還債務 / キャッシュフロー = 債務償還年数

財務格付診断はF+plusでの作成が可能です。F+plusとは経営革新等支援機関推進協議会の会員限定のシステムです。

金融機関が融資判断をする「財務格付」とは？

金融機関は融資判断をする際、企業の「信用格付」を基準にします。この格付けは企業の倒産リスクを評価するものです。収益性や成長性ではなく、特に財務の健全性や安全性に関する指標を重視します。その信用格付けを決める指標の中で最も重要な2つの財務指標があります。それは「債務償還年数」と「自己資本比率」です。

債務償還年数

》 計算式

$$\frac{\text{要償還債務}}{\text{営業キャッシュフロー}} = \frac{(\text{有利子負債} - \text{所要運転資金})}{(\text{経常利益} + \text{減価償却費} - \text{法人税等})}$$

😊 理想の状態

10年未満、理想は7年未満

POINT

簡単に言うと、多くの借入を抱える企業は倒産リスクが高く、借入が少ない企業はリスクが低いとされます。しかし、金融機関は借入額ではなく、**返済能力に対する借入金の比率で判断**します。企業の返済能力を知るには、「営業キャッシュフロー」という収入の指標を使います。企業の借入から運転資金を引いた残り（要償還債務）を、営業キャッシュフローで割ることで、**借金を返すのに必要な年数**がわかります。通常、この年数が**10年以上だと借入が多いと見なされ、7年以下なら問題ない**とされています。



自己資本比率

》 計算式

$$\text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100 \text{【\%】}$$

😊 理想の状態

10%以上、理想は15%以上

POINT

金融機関は**自己資本が厚い企業は潰れにくい**と診ています。突然の業況悪化でも簡単に債務超過には至らないという安心感から融資がしやすいと考えます。自己資本が厚いかどうかの判断は金額の大きさではなく、どれだけ自己資本で事業資産を賄っているのかを示す「自己資本比率」で判断します。一般的に**10%以上が問題のない水準**とされ、**15%以上ならば良好な水準**とされています。



社長の会社の金融機関からの評価、
どうすれば更に良くなるか一緒に見ていきましょう！